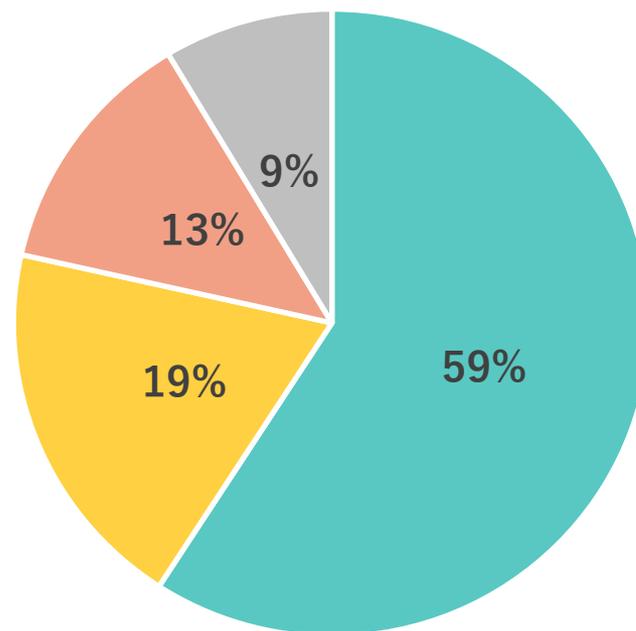


一斉休校にともなう、学童保育等緊急開室対応の状況調査アンケート結果

2020.3.25

【一斉休校にともなう、 緊急開室対応の状況調査アンケート 概要】

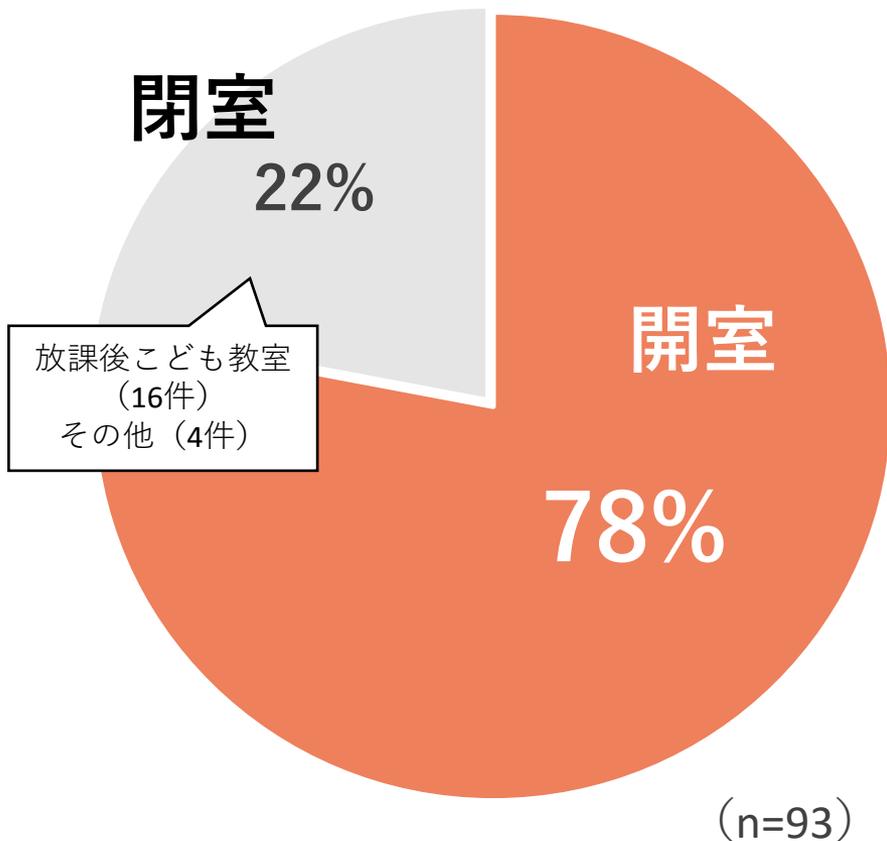
- 実施期間 : 3月17日（火）～3月23日（月）まで
調査方法 : インターネット・FAXでのアンケート調査
対象 : 放課後NPOアフタースクールと活動を協働した、
47都道府県の学童保育等、放課後活動団体のみなさま
(数百団体に依頼)。
総回答数 : 93件



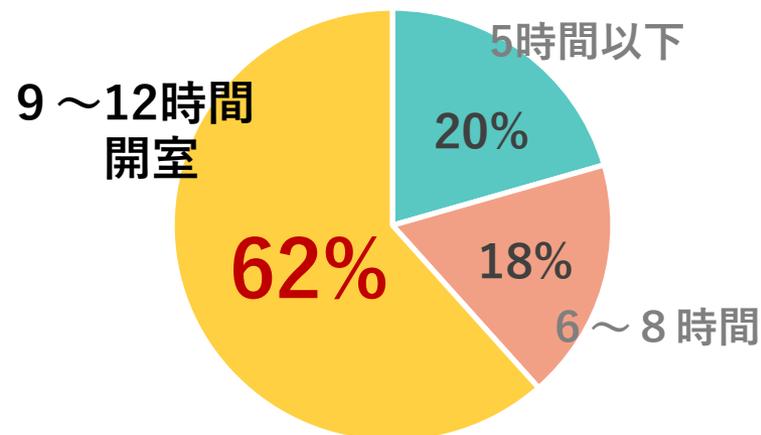
回答団体属性

- 放課後児童クラブ（学童保育）
- 放課後子ども教室
- 一体型/連携型
- その他

「開室している」が **78%**
その多くが、休校開始直後の3月2日より終日開室

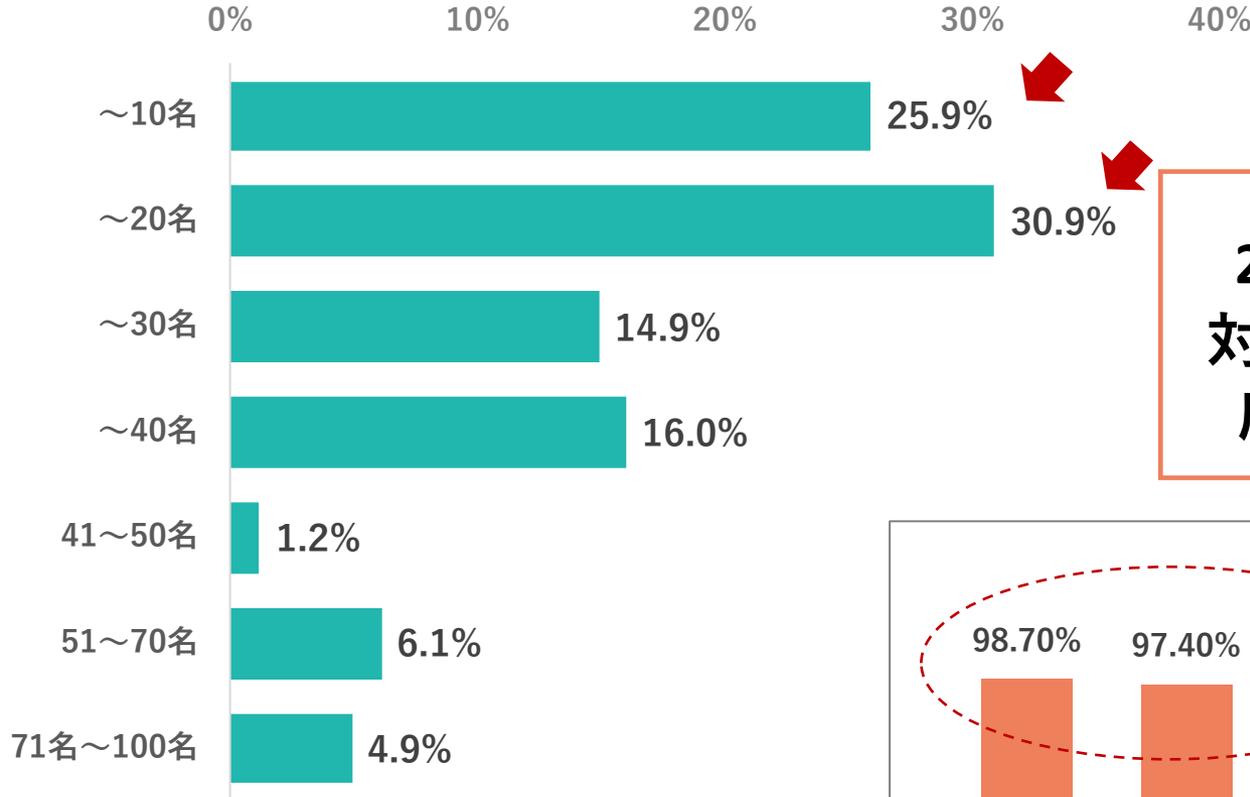


開始日	%
3月2日～	69.9% (51件)
3月3日～	13.7% (10件)
3月4日～	8.2% (6件)
3月5日～	4.1% (3件)
翌週以降	4.1% (3件)



1日の来室状況

【人数別】

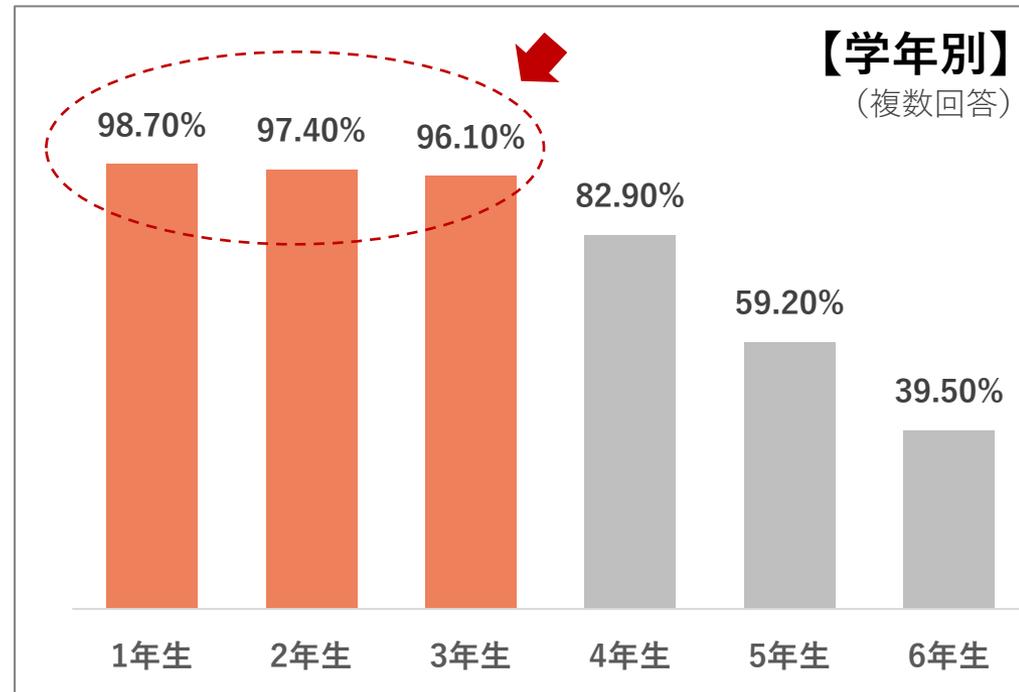


20名以下が **56.8%**
対象を限定した開室対応、利用自粛が影響

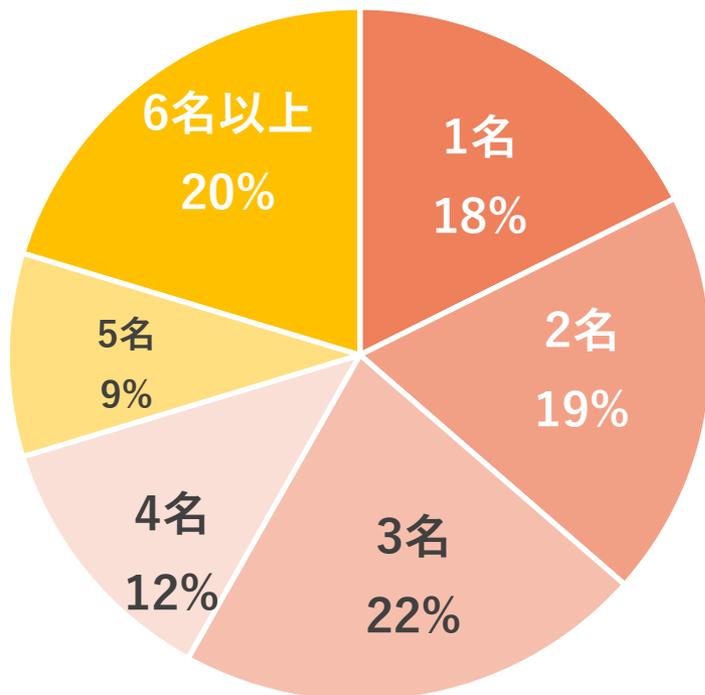
9割以上で
1年～3年の児童が来室
→ 低学年ニーズが高い

【学年別】

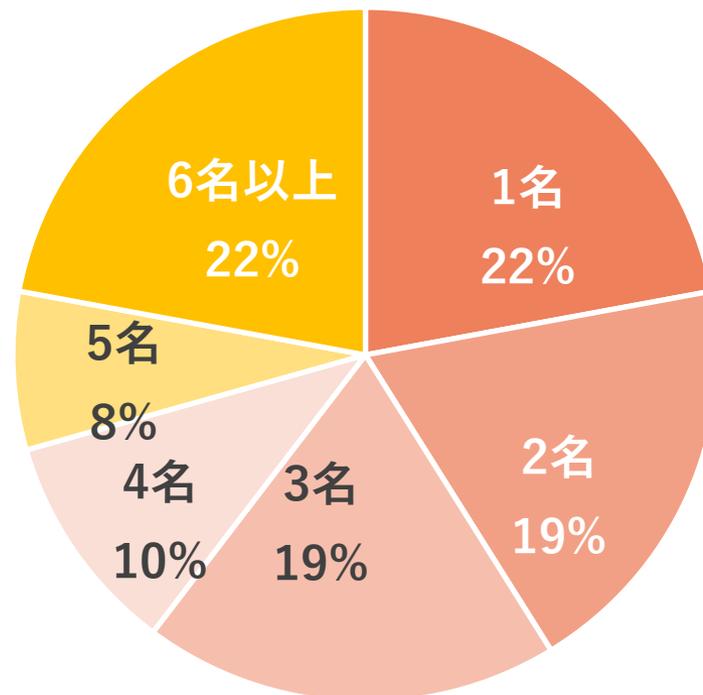
(複数回答)



【常勤職員 (1日平均)】



【非常勤職員 (1日平均)】



常勤1名で長時間対応が必要な学童クラブの声も。スタッフの確保が引き続き大きな課題

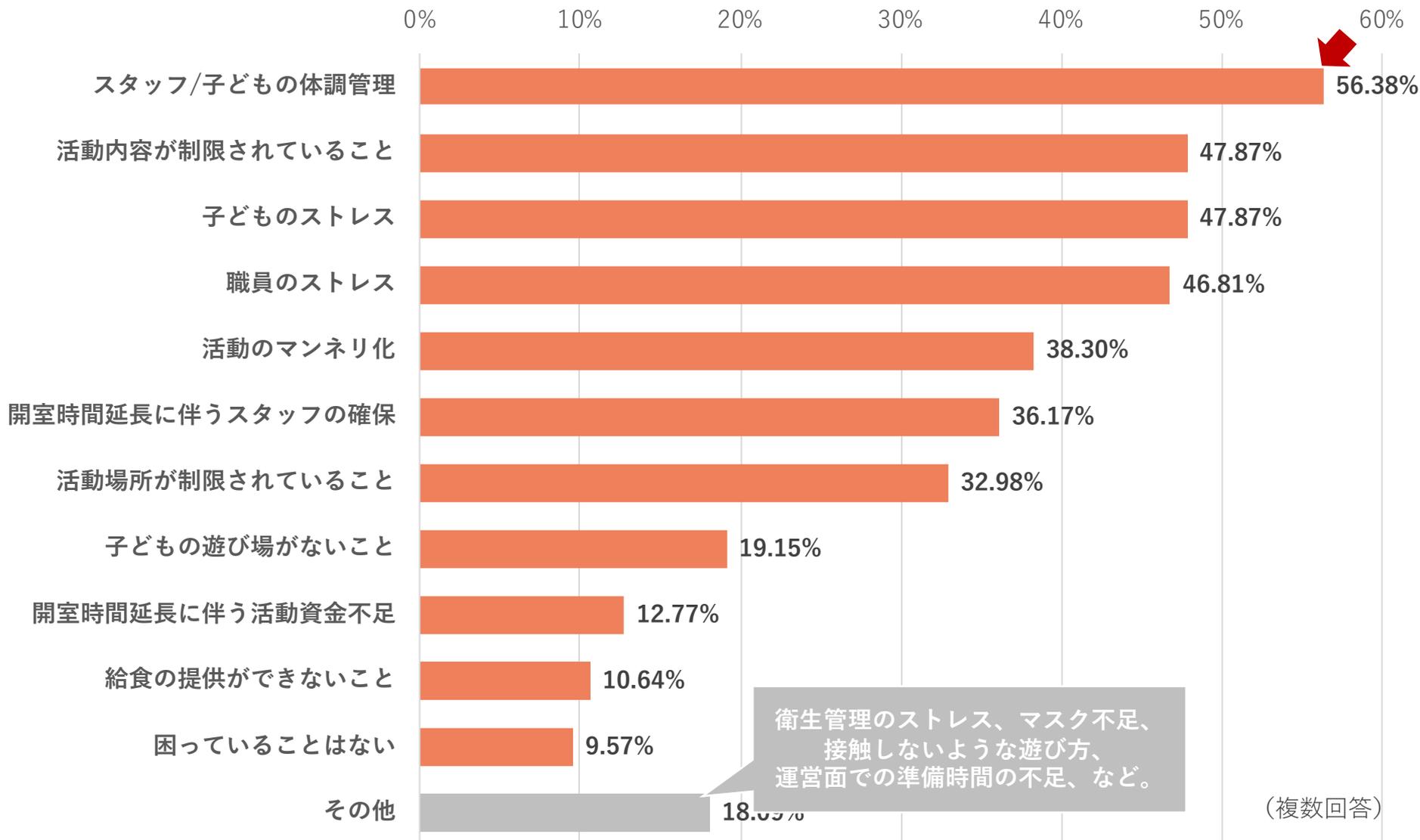
- 一斉休校に伴い、**78%の団体が緊急開室**。
- 放課後児童クラブ（学童保育）・一体型/連携型では、**ほぼ100%開室**。
- 放課後こども教室の開室は**10.5%と低い**。
- 緊急開室は、**休校直後の3月2日より開始が69.9%**
- **9時間以上の長時間開室が6割以上**。
- 受け入れ人数は、保育の対象を限定した開室、自粛の呼びかけから平時と比較し少人数化の傾向

放課後児童クラブ（学童保育）のほぼ100%が開室し、想定外の長時間開室を続けている。受け入れ人数が普段より減っているクラブもあるが、児童を少数のスタッフで10時間以上週6日毎日預かる状況が続く学童クラブも。

最も多いのは、

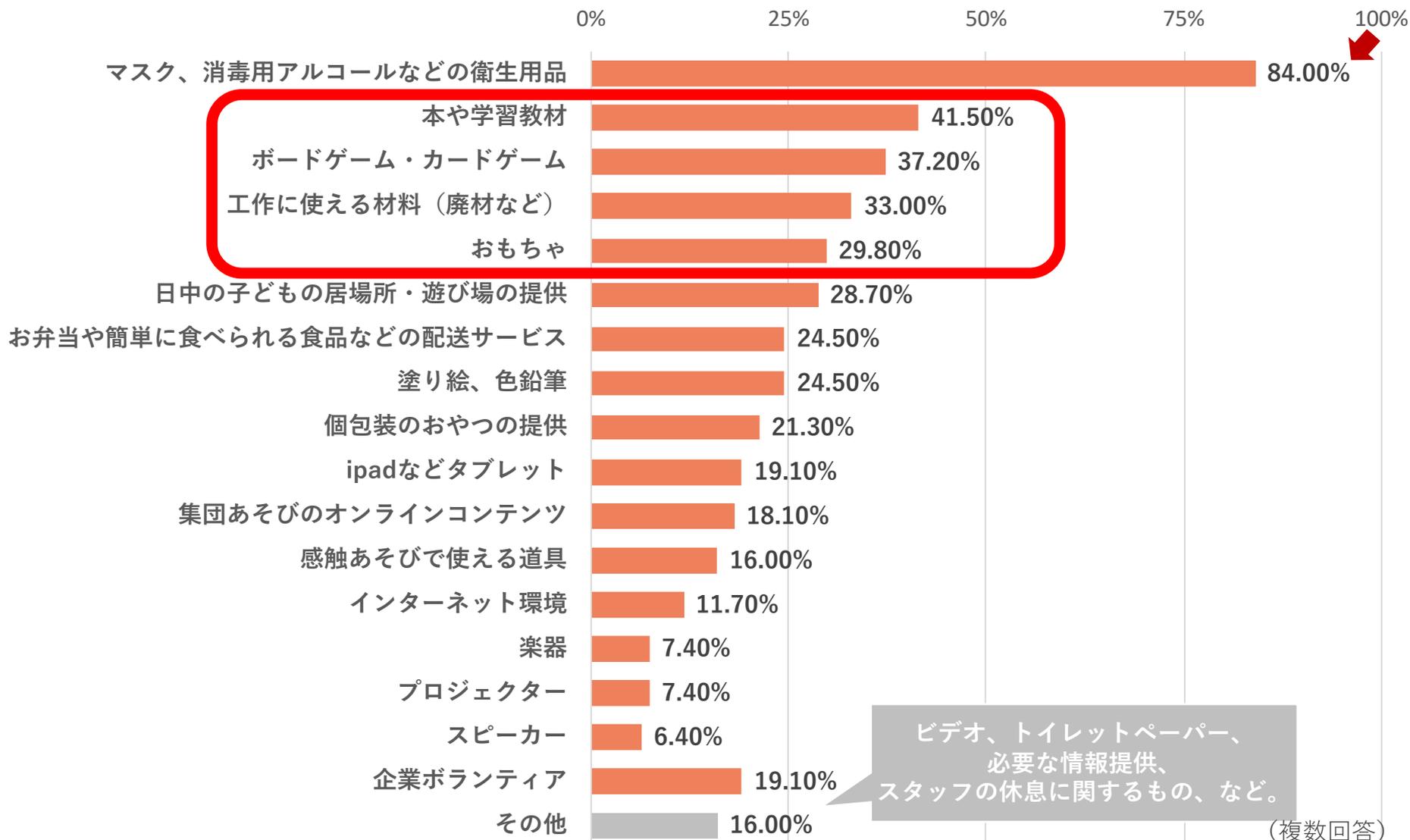
こども・スタッフの体調管理

緊急開室・休室の影響として困っていること、心配なことは何ですか。



社会的に不足するマスク等の衛生用品に続き、活動時間を充実させる物資の需要が高い

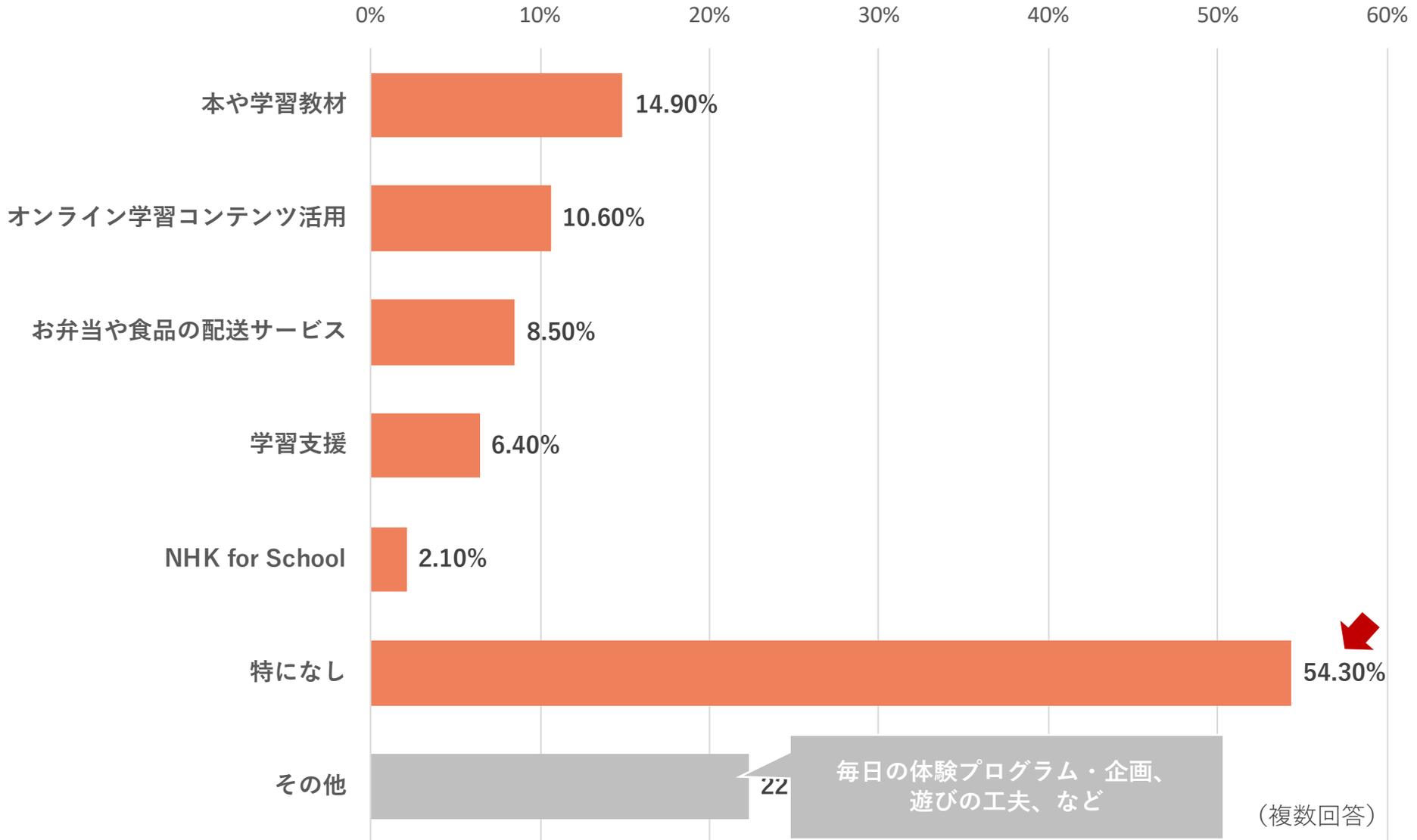
民間企業による支援策として、どんなものがあったら助かりますか。



予期せぬ緊急開室により

子どもの支援にかかりきりで新たな対応策まで手が回らない。

緊急開室にあたり、既に活用しているサービス、工夫されていること



緊急開室にあたり対応した事

〈受け入れ制限〉

- ・ 保育室の環境維持の為、受入児童数に制限をかけた。（自宅待機が出来る児童は利用を控えること）
- ・ 市の方針に基づき、家庭にいたることが困難な児童に限り、受け入れを行っている。
- ・ 開設場所を移動させた。

〈人員調整〉

- ・ 長期休みをお願いしていた方にどうしてもとお願いした。
- ・ シフトが組めず一時的なスタッフを雇用した
- ・ 小学生の子どものいる職員が中抜け・早退できるようにシフトを組んだ。

〈健康管理チェック、その他〉

- ・ 消毒液、噴霧器、マスクなどの購入による予想外の出費
- ・ 健康管理チェック体制の強化
- ・ 行政や学校との連絡時間増加・小学校との会議が増えた

〈次年度への準備への不安・今後への不安〉

- ・ 新年度の為の準備の時間、会議の時間が取れない。
- ・ 新入会説明会の開催ができず、いきなり4/1の受け入れになりそうで不安。
- ・ 利用自粛を呼びかけた結果、利用人数が予想よりも少ないのでなんとかになっている。春休みに入るとどうなるか心配
- ・ 今回の対応がいつまで続くのか見通しがたたない。春期保育期間が始まれば多くの児童を受け入れることになるのが心配である。職員の負担増もかなり心配である。

〈人員調整・長時間勤務〉

- ・ 職員が少ないので、総出で毎日フルタイム勤務、交代で休めない。
- ・ 早朝から勤務する期間が1ヶ月に及ぶためスタッフが疲れている。
- ・ 子どもの出席人数が少なく、パートの先生の勤務が削られ、それによる収入の減少の問題。

〈感染予防策〉

- ・学童は限られたスペースで児童が過ごすため、省庁が示している1メートル以上離れることなど、感染予防を徹底について難しい面がある。
- ・消毒などの感染症拡大防止の専門的な知識がないので、環境整備をどこまでやればよいのか
- ・無症状でも感染者が出ているので万が一感染していたら、周囲に多大な迷惑をかけてしまうことになるので、指導員全員が不安に思っている

〈衛生用品の不足〉

- ・マスク、消毒薬がない
- ・マスクが無い。子どもにもマスクをお願いしていますが、忘れた子どもに持って来てと言うのも辛い。

周囲からの支援で助かったこと

〈地域・企業からの支援〉

- ・ マスクやアルコール消毒の提供。
- ・ ローソンのおにぎり配達は、子どもたちがとても喜んだ。
- ・ おもちゃや本が届くのは子どもたちが大変喜んでいる。
- ・ 保護者からの差し入れや市や民間企業からの物資の支援
- ・ 近くの方がボランティアを名乗り出てくれて子どもを見てくれている。

〈学校からの支援〉

- ・ 体育館や空き教室の利用が認められたこと
- ・ 学校での特例預かりの体制は 児童の一か所集中にならず良かった
- ・ 活動場所を学校にしたので、学校の先生方にサポーターとしてかかわっていただき助かった。
- ・ 協力が得られ助かった。（検温・衛生指導・子どもの見守りスタッフの援助・学校施設の利用）

〈ポジティブな意見〉

- ・ 小学校が閉校となり、ただちに児童クラブが朝から預け入れる体制を整えてくれたことに感謝の気持ちを頂いた
- ・ 開所してくれて助かる。職員を労う言葉（大変ですね、頑張ってください等）が多く聞かれる。
- ・ いつも通り過ごすことで保護者の皆様が安心して仕事に行けるというお声を沢山いただいております。
- ・ 「こんな状況でも開室してくれてありがとうございます」との感謝の声をいただきました。

〈ご指摘など〉

- ・ 学校が休校なのに児童の接触が多い学童が開所で安全なのか。
- ・ 学校の休校に対し、学校よりも狭い部屋で、密集する可能性が高い学童を開所する事への不安と疑問が多かった
- ・ 預けられる家庭に制限があること。（保護者が感染症対策に従事している職業の方のみ）